

新しい資本主義を検討する

「信州宮本塾」での宮本憲一先生の講演をズームで拝聴した。多くの示唆を得たので、講演のポイントだけでも紹介したい。

現代資本主義は危機に直面している。「福祉国家」「新自由主義」の時代を経て、気候危機・コロナパンデミックによる体制の危機を迎えた。現代資本主義はどのように変わるのか、グリーンニューディール、さらに新しい資本主義（公益資本主義、非物質資本主義）は、危機を乗り越えうるか。

福祉国家を破壊するイギリス・アメリカ・日本の新自由主義の潮流を振り返る。日本では中曽根政権から、新自由主義的な改革が推進される。安倍政権は規制緩和、法人税・所得税減税の一方で、社会保障・医療・衛生・教育の縮減を進めた。国立大学法人化をはじめ政府の事業に民間経営原則を移入。とくに民間企業の成長による GDP 拡大を目的に、円安の為替相場と株価上昇を進めるため、日銀を政府の支配下に置き、国債や株式を引き受けさせるという異常な政策をとった。

地球環境の危機は、新自由主義によるグローバルな資源獲得の自由競争のもたらした社会的災害といってよい。コロナパンデミックは食料増産・都市化による森林などの自然破壊によって、野生動物と人間社会の境域がなくなったため、地球環境問題による災害である。二つの危機は新自由主義では防ぐことはできず、資本主義体制が問われている。ダボス会議での「グレートリセット」など、経済界からも新自由主義への批判が出されている。ESG（環境・社会・企業統治）やSDGsは希望の星になりえるか。

新しい資本主義として注目される一つが公益資本主義だ。公益資本主義は収益重視の株式会社で実現できるのか。もう一つは諸富徹『資本主義の新しい形』が主張する非物質資本主義、社会的投資国家である。素材面から新しい資本主義にアプローチするものだが、体制面から新自由主義の転換に迫る潮流とどう整合させるのか。

岸田政権の新しい資本主義は、巨額の補正予算を見るかぎり、アベノミクスと変わりが無い。赤字国債によるバラマキであり、とりわけ特定の企業に補助金を出すのは違法に近い。新自由主義を乗り越え、気候危機を解決するには、公益資本主義、さらに分権型福祉社会でなければならぬが、日本ではまだ主体が見えない。

気候危機とコロナパンデミックは、大量生産・流通・消費・廃棄を継続する現代資本主義と現代社会主義の変革を求めている。このままでは今世紀を通じて、災害が繰り返されるであろう。その最大の被害者は、若い世代である。若い世代が資本主義に代わる、変革への学習と行動を始めることを期待したい。

いまから 40 年前に刊行された宮本憲一『現代資本主義と国家』を思い出しながら、先生の講演を拝聴して、すこし質問させてもらった。私なりに検討を進めていきたい。

(2021 年 12 月 7 日)